

編集・発行
うじいえ自然に親しむ会
事務局
さくら市ミュージアム
- 荒井寛方記念館 - 内

第12号
平成23年3月1日

うじいえ

自然に親しむ会だよい

平成22年の活動をふりかえって

会長 加藤 啓三

平成22年は、国連の生物多様性年でした。栃木県は、わが国の生物多様性基本法により、「生物多様性とちぎ戦略」(全国で8番目)を9月に完成し、その実践団体として本会が紹介されました。

10月には生物多様性の国際会議が名古屋で開かれ、自然への環境問題がテレビや新聞で大きく取り上げられました。本会の活動も、はじめて環境省に認められ、名古屋での国際会議の会場に置かれたパンフレット(日本語版と英語版)では、1ページ目に紹介され、注目されました。日頃の活動が国内だけでなく、広く世界へ発信されました。会員の皆さんのがこれまでのご協力に感謝いたします。

朝日新聞出版の小中学生向け月刊誌「ジュニアエラ」11月号でも本会の活動が紹介されました。

さくら市環境課では、国の特別予算を得たことから外来種対策として、6月から11月にかけ、シナダレスズメガヤやオオキンケイギクの抜き取り作業を行いました。本会の事業に加えて心強いことでした。

また、今年度は、本会のシナダレスズメガヤの抜き取り作業に栃木県立白楊高等学校や東京大学農学部大学院生の初めての参加がありました。若い人たちの参加は活動に活気が出て、うれしく思いました。

さくら市立押上小学校6年生は昨年に続いて独自に抜き取り作業を行ってくれています。

また、新たに宇都宮市環境学習センターの市民環境大学「鬼怒川再考」の受講生、さらには本会の活動を新聞などで知ったという方々が、シナダレスズメガヤの抜き取りに参加してくれました。

このほか9月の鬼怒川自然観察会には、栃木水環境条例制定ネットワーク(環境問題に取り組む団体)の皆さんに、宇都宮市や真岡市から参加していただきました。

缶バッジマシンの購入により、松田 喬さんが撮影した「シルビアシジミ」「カワラノギク」など9種類の缶バッジをつくりました。「ゆめ!さくら博」でぬりえを完成させたこども達へプレゼントしてよろこばれました。今後もさまざまなイベントで活用したいと考えています。

なお、栃木県コミュニティ協会からは「あしたのまちづくり・くらしづくり活動賞」の「奨励賞」をいただいたことをつけておきます。

生物多様性の保全について

副会長 松田 喬

COP10（地球生きもの会議）が終わって、マスコミがそれについて取り上げることもめっきり少なくなってしまいました。それは仕方がないことかもしれません、COP10の成果を無駄にしないためには、息の長い取り組みが重要だと思います。

生物多様性の保全には、多くの問題があります。その中で、身近なもので私が気になつてることをいくつか取り上げ、私の考えを述べさせていただきたいと思います。

鬼怒川の礫河原の植物相を見ると、絶滅危惧種の中で比較的安定しているのはカワラニガナぐらいです。オキナグサはほぼ絶滅状態、カワラノギクも保全活動なしには存続が難しい状況です。

一方、これらの植物を圧迫する侵略的な外来種の方は、シナダレスズメガヤが相変わらず猛威をふるい、オオキンケイギク、セイタカアワダチソウも減少していません。さらに、北米原産のツル植物であるアレチウリがこれに加わろうとしています。その他にも、ムシトリナデシコやオオフタバムグラなど外来種ばかりが目立ち、鬼怒川の河原は、もはや多国籍軍に占領されてしまった感じです。これらの植物は河原以外の場所でも増殖していて、その駆除には多くの労力と時間が必要です。

田畠のあぜ道が除草剤の散布で一面に枯れているのを見かけます。草刈り機による除草は重労働ですから、除草剤に頼ることになるのでしょう。草刈り機の場合は刈り残る部分があり、茎や葉がまた伸びてくるので、その植物を食草とする昆虫などが、その地域で全滅することはありません。しかし、除草剤で一面枯れてしまうと生き残るのは難しいと思われます。また、除草剤に強い植物だけ生き残り、植物相が貧弱になってしまうことも懸念されます。

この他にも、除草剤には環境ホルモンと疑われるものがあり、井戸水への混入が心配されるので、その使用は極力ひかえてほしいと思います。

SATOYAMAは、今や国際語として通用する日本の自然です。高い生物多様性を維持しながら、自然と人と共生していることが世界から注目されました。しかし、ライフスタイルの変化で、里山の維持・管理が難しくなっています。

こうした中、栃木県が「とちぎの元気な森県民税」を創設して、県内の森林の健全な維持・管理に取り組んでいるのは、とても意義深いことだと思います。

栃木県のホームページには、里山の雑木林の維持・管理についての詳細なマニュアルがのっていてとても参考になります。ただ、私の考えでは、ここでは森林の樹木の管理が主目的になっていて、森林の生物多様性の視点からは十分とは言えないと思います。生物多様性の保全から見ると、枯れ木や痛んだ木、落枝、落葉も森林の大切な要素です。枯れ木や弱った木にも、それを必要とする鳥や昆虫、キノコ、カビなどがいます。それらを一定量残すことや、切り倒した幹、枝、落ち葉などを積み上げて小動物やキノコの生育できる環境をつくるなど、細かな配慮が必要だと思います。この税で整備された勝山の森の状況は、その点からとても残念です。

さくら市付近は、見かけ上は「豊かな自然」が残されているようですが、その中身はぼろぼろで「骨粗鬆症（こつそしょうしょう）」にかかっていると思われます。ここには、多

くの絶滅危惧種が生息していますが、このまま放っておけばいずれ絶滅してしまうでしょう。しかし、人手をくわえて保護・再生をはかれば、復元・維持が可能な潜在的な力が残っていると思います。

多くの方々のご協力を得てその保護・再生に取り組めればと思います。

カワラバッタ見~つけた（鬼怒川昆虫観察会に参加して）

水環境条例制定ネットワーク事務局 北村 恒子

9月26日はひさしぶりの快晴に恵まれ、観察会には最適の日になりました。うじいえ自然に親しむ会代表の加藤さんから観察会のご案内をいただき、7名（子ども1名）が参加させていただきました。

鬼怒川河原の観察に参加したのは4回目ですが、左岸の氏家大橋下ははじめてです。普通の河川敷の草原に見えるここで、何が見つけられるのか不安に思っているうちに観察会は始まりました。

講師の松田さんや、昆虫にくわしい葛谷さんのお話を聞きながら昆虫や植物の所在が明らかにされていくと、参加者の観察力も深まって、つぎつぎと見つけることができました。またその度に、実物を見ながらそれぞれの名前や特徴を丁寧に説明していただけたことは、本当にありがたいことでした。

絶滅のおそれがある希少種のカワラニガナ、ウスバカマキリのほかカワラハハコ、ガガイモ、ベニシジミ、ツバメシジミなどをはじめて見ました。

希少種のツマグロキチョウは、関東ではほとんど絶滅し、また、ミヤマシジミが平地に生息している場所はめずらしいそうです。ツバメシジミは、ほんとうに小さく、羽のあかい紋としっぽの特徴を確認することができました。

カワラバッタを見るのは2回目、石と見分けがつかない色で、跳ぶと羽の色が鮮やかな水色でとてもきれいでした。鬼怒川の石の色と水の色を象徴しているようです。

ノシメトンボとミヤマアカネ、アキアカネとナツアカネの見分けかたも教えていただきましたが来年の出会いまで覚えていられるでしょうか。

カワラニガナ、カワラハハコはそれぞれ庭によくあるジシバリ、ハハコグサとおなじ仲間だそうですが、庭のものより大きく艶やかでした。

最後に、咲き始めたばかりのカワラノギクの花を保全地区で鑑賞しました。抜き取られたシナダレスズメガヤの上にはノウサギのフンがありました。さくら市の鳥はセキレイだそうです。セグロセキレイが群っていました。あらためてたくさんの生きものがいることに驚き、シナダレスズメガヤの抜き取り作業の重要性も認識しました。



<カワラニガナの説明を聞く参加者>

生物多様性年、生物多様性とちぎ戦略ができた年に貴重な体験をさせていただきました。また、機会を見て参加したいとおもいます。河川敷の生物多様性の保全と、うじいえ自然に親しむ会のご発展を祈念いたします。

* 水環境条例制定ネットワーク

宇都宮市内にある市民活動団体。すべての生命の根源である「水」に視点を置き、河川の水質やそこに生息する動植物の調査を通して、行政に望ましい水環境の保全のための施策つくりを提言している。

氏家小の校外学習テーマに「シリビアシジミ」

10月26日、さくら市立氏家小学校3年生の校外学習に市の天然記念物「シルビアシジミ」がとりあげられ、本会の加藤会長が講師に招かれました。

ミュージアム体験学習室で標本や写真を見た後、48名の児童は「ミヤコグサ管理地」で実物を観察しました。当日学習した内容は、12月3日の氏小わくわくチャレンジ発表会「わたしたちの市」の中で、「シルビアシジミについて」と題して4つの学級で発表されました。

後日、参加児童からお礼のメッセージがよせられましたので、いくつかご紹介します。

- * 「ねりえをくれたり、ミヤコグサをみせてくれたり、ありがとうございました。ミヤコグサが黄色い花でみんなに小さかったのでびっくりしました。」
 - * 「ひょう本のシルビアシジミを見て、みんなに小さいなんてしらなかつたです。指のサイズくらいでした。ほんとにありがとうございました。」
 - * 「こん虫のことがよくわかりました。こんなに、こん虫にきょうみをもつたのははじめてです。」
 - * 「シルビアシジミやミヤコグサのほかにも、ぜつめつきぐしゅがいるのを知りました。とてもべん強になりました。」



＜シルビア・シジミの学習をする氏家小3年生＞

平成23年

- ★3月20日(日) 8:50～ 「勝山探鳥会」
 - ★3月21日(月) 9:00～ 「シナダレスズメガヤ抜き取り作業(氏家病院西側実験地)」
 - ★4月 3日(日) 9:00～ 「草川下流清掃作業」
 - ★4月17日(日) 9:00～ 「シナダレスズメガヤ抜き取りとカワラノギク種まき」
 - ★4月24日(日) 10:00～ 「お丸山公園ヤマブキソウ観察会」
 - ★5月22日(日) 10:00～ 「シルビアシジミ観察会」及び「平成23年度定期総会」